



横浜国際高等学校
国際科国際バカロレアコース
進路のしおり
2024



目次

1. IB コースを選択して進学する	2
2. 国内進学について	3
3. 海外進学について	4
4. 併願について	5 - 6
A) 国内と海外の併願の場合	
B) 異なる国の間の併願の場合	
5. 奨学金について	7
6. 合格大学一覧	8 - 9
7. 16 期卒業生から在校生へのメッセージ	10 - 18

1. IB コースを選択して進学する

IB コース生は、海外・国内ともに自身が3年間で培ってきた総合力を駆使して、進学していくこととなります。日本国内の一般選抜のように学力試験を受けて合否を測られるような形式ではなく、表現力や論理的思考力などを必要とする選抜方式となります。IB コース生は、多くの課題や論文執筆に取り組み、課外活動で多様な経験を積むことが見込まれます。そのため、自分の活動をポートフォリオとして、記録しておくこと出願の準備の際に役立ちます。大学が提示するアドミッションポリシーと生徒自身の希望が合致することが満足度の高い進学に繋がるため、大学・学部研究をしっかりと行うとともに、自己分析を行い自分のこともよく知るよう努めましょう。IB コースでの学びを活かした進路選択ができるよう1年次から準備する必要があります。

3年間の流れ

1年次：大学・学部を知る

1年次から始める大学研究は非常に重要です。それぞれの大学の特色（強み）を理解していくためには資料や書籍の読み込みも必要なため、時間がかかります。大学選びをスムーズに行うためにも1年次でのリサーチはしっかり行うべきです。自分がやりたいことがまだ見つけられていない場合も、いろいろな大学の情報に触れるにつれて自分の興味の方向性に気づくかもしれません。国内ならオープンキャンパスに参加するのがよいでしょう。海外ならオンラインでウェビナーに参加してみるとよいでしょう。海外の大学情報も大学のホームページより入手可能ですので、幅広く検索してください。また、9月から11月ごろに各国の大使館などが実施する留学フェアに参加し、情報収集をしましょう。フェアでは大学の入試担当の方や卒業生と話ができるため、インターネットではわからない情報も収集できます。まずは、大学・学部を知ることから始めましょう。

2年次：大学選択の準備

大学のことを知ると、その大学に合格するために、自分が何をすべきかが見えてきます。例えば、IELTSで6.5が必須条件の場合、あとどれくらいの積み重ねが必要で、いつまでにそのスコアに到達しないといけないかが明確になります。受験可能な時期や回数をよく検討して、出願までの計画を立てることが大事です。3年次になる前に、出願大学を絞り込み、入試要項を取り寄せる手配や、海外の場合、ホームページでアドミッションがいつオープンするかを随時ホームページで確認しましょう。3年次になるまでに、過年度の出願スケジュールで3年次の自分の出願計画を立てることで余裕を持った準備をしましょう。

3年次：出願

おおよその出願計画を立てた上で、実際の入試要項やホームページを確認して、出願計画の差異を確認してください。志望理由書やエッセイ、また推薦書を仕上げる計画が重要になります。同時に、2年間の学校生活を振り返りながら、自己分析をしてください。自分は将来どのように生きていきたいか、どのように社会と関わり社会に貢献したいのか、自分の情熱は何に向かっているのかなど10年先20年先の自分を想像してください。そのためには、まず大学で何を学び、自分のどんな強みを伸ばしたいか、さらに、それを学ぶために自分は今それに適した資質をどの程度持ち合わせているのかなど時間をかけてじっくり自分と向き合ってください。徐々に整理され、本当にやりたいこと、行きたい大学もはっきりしてくるでしょう。志望理由書や出願エッセイ等を仕上げ、推敲を繰り返し、完成させます。出願のプロセスは、非常に時間がかかり、精神的にも追い込まれることもあるかもしれません。焦らずに丁寧に取組みましょう。

2. 国内進学について

IB コースを選択して国内進学する場合、次のような選抜方法があります。

- A) 国際バカロレア特別入試
- B) 総合型選抜
- C) その他の推薦入試
- D) 指定校推薦
- E) 一般選抜

A) 国際バカロレア特別入試

全国で 78 校の大学で IB スコアを活用した入試を行っています。(文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム事務局調べ・2024 年 6 月時点) 選抜方法は大学によって異なりますが、多くの大学で、EE や TOK の提出や CAS の活動報告が求められます。大学によっては、求める IB スコアの出願要件を満たす必要があるため注意が必要です。また、国公立の併願も可能であり、国公立も目指しやすくなっています。

B) 総合型選抜

志望理由書だけでなく、その他の提出する書類が多いことや、面接等も実施されることがあるため、入念な準備が求められます。

C) その他の推薦入試

東京外国語大学のように、帰国子女特別入試などを実施する大学の場合、国際バカロレアコースで資格取得見込みであれば、出願資格を満たします。志望理由書だけでなく、活動報告書等の提出がある場合や、面接も実施されることがあります。

D) 指定校推薦

IB コースを区別しないものと、IB コースのみを対象とした指定校があります。大学側から提示される推薦基準を満たすとともに、本校独自の推薦基準もあります。

E) 一般選抜

日本の教育課程と国際バカロレアのカリキュラムは異なるため、一般選抜を選択する場合は、早い段階からの入念な準備が必要です。

上記 A、B、C の推薦型が IB コース生としての学びをアピールすることができる選抜方法です。3 年間で培った資質、スキルを活かしていきましょう。国内の IB 入試は大学によって異なります。大学側の制度が確立していないこともあるので、学校、大学と連携して対応する必要があります。

なお、卒業後、いわゆる「浪人生」として、IB スコアを利用して受験する場合には、再受験をしない限り、一度取得したスコアは更新されないことに留意する必要があります。

3. 海外進学について

世界中の大学への進学が可能と言えます。海外の大学に出願するプロセスは国によって異なり、また大学によっても異なります。よく情報を収集し、適切に出願していきます。

英語圏の国への進学が多く、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダが主流となります。ヨーロッパなど第一言語が英語以外の国への進学の場合、現地の言語力が求められることがあります。英語プログラムを実施する大学を選択して進学することもあります。

A) アメリカ

学力、課外活動、資質など総合的かつ、多面的に判断されます。面接がある場合もあります。大学によって出願エッセイ・推薦書が複数枚になります。高校での活動や成長、人物像が、容易に想像できるように執筆します。一般的な出願方法は Common Application と呼ばれるシステムがありますが、州によって独自のシステムを導入している場合があるため、志望大学の出願方法をよく確認する必要があります。

B) イギリス

出願する学部に関する課外活動や、その分野を学ぶための資質が評価されます。アメリカと異なり3年間で学位取得が可能なため、専門分野を学ぶ準備がどれだけできているかをアピールすることがポイントです。また、5校に同時に出願するため (UCAS 利用) 特定の大学の理由よりも、学部の志望理由とともに、イギリスを選択する理由を述べるのが一般的です。

C) オーストラリア

基本的には IB スコアで合否が決まります。出願と同時に奨学金の申請が行われます。出願は、「オーストラリア留学センター」等、オーストラリア政府認定の公式出願窓口を通して行うのが一般的です。無料相談を早めに受けましょう。

D) カナダ

大学により出願書類は異なります。IB スコアや成績証明書等の書類提出のみの場合、複数枚のエッセイ提出や面接が行われることもあります。大学が提示する締め切りより早く出願していくことが重要です。また、州によって出願システムが異なるため、州を跨ぐ場合には注意が必要です。

E) ヨーロッパ (イギリス以外)

CV (curriculum vitae) やエッセイの提出が求められることがあります。CV は履歴書に近く、アルバイトなどの経験も記載します。大学によっては、数学などの試験が別途実施されます。

北欧については、学部進学において英語プログラムを開講している大学を選択することで、進学は可能です。生活する上で、現地の言語習得は必要不可欠になるでしょう。

海外大学へ出願する場合は、卒業するまでに進路が決定しない場合もあります。また、合否の結果通知が早い場合もあれば、最終的な通知期限ぎりぎりの場合もあります。焦らず、信じて待ちましょう。

海外大学に出願する場合の補足として、次の2点をあげます。

1. 英語の外部試験

大学は留学生に対して、一定の英語力を証明することを求めます。その英語力に達していれば、直接大学に入学することが可能ですが、English B の履修者は TOEFL や IELTS のような外部試験のスコアにおいて、必要スコアに達していない場合、ファウンデーションコースと呼ばれる大学準備コースで英語力を伸ばす必要があります。英語に不安がある生徒にとって、ファウンデーションコースは安心して海外に挑戦できる存在となります。ただし、1年程度を必要とするため、イギリス、オーストラリアともに、本来3年で卒業が可能ですが、卒業までに4年程度必要となる可能性が高くなります。

2. ギャップイヤー (Gap Year) の活用

海外の大学では一般的な制度として、ギャップイヤー (Gap Year) の活用を検討する場合があります。これは、大学が入学前や在学中に休学することを許可するもので、休学中にインターンシップ、ボランティア、留学など、さまざまな経験を積むために活用されます。大学から合格をもらったのち、その手続きを行うこととなります。検討する場合は、自分がなぜ休学をするのか、目的意識をもち、より充実した大学生活を送れるようにしましょう。

4. 併願について

併願を検討する際に、最も留意すべき点は、スケジュール管理です。最大で4つのスケジュールが同時進行で行われることを意識しましょう。出願する大学、国をどのように計画するかが成功のカギとなります。おおまかなスケジュールは次の通りです。

1. 国内 — 基本的に国内の出願は9月ごろを皮切りに11月ごろがピークになります。大学によって、2月ごろまで出願がある場合もあります。
2. 海外 — 国によってこととなりますが、翌年の秋入学を目指す場合、10月ごろから始まり、1月ごろまでがピークになります。例えば、国ごとの締め切りの目安は、アメリカの場合、早い出願は10月、通常は1月ごろ、イギリスのケンブリッジ大学・オックスフォード大学は10月、それ以外の大学は1月、オーストラリアは1月ごろ、カナダは最終的な出願が1月ごろです。
3. DP — プログラム (学校での課題等) のスケジュール、4・5月ごろにほぼすべての科目で内部評価 (IA) が行われます (詳細はDPハンドブック Assessment Calendar をご覧ください)。その後、国内の出願に活用されるMOCK 1が実施されます。また、9月には全員が活用する重要なMOCK 2が実施されます。11月にはいよいよ最終試験になります。
4. 奨学金 — 日本学生支援機構 (JASSO) の海外進学希望者向けの奨学金の申し込みを行う場合、9月から10月に申し込みを行います。具体的な留学の目的、将来の展望などエッセイが求められます。また、1次を通過した場合は面接も行われます。その他、国内で申請をする奨学金も同じような時期に選考が行われることが多いので注意しましょう。

A) 国内と海外の併願の場合

表1のように具体的な大学を少し提示して説明します。4月には、自己分析と大学・学部研究を本格化させていきます。一貫した学部への志望理由と将来の展望を固めていくことで、出願の締め切りが早い大学から順次エッセイの初稿を完成させると同時に、教員に依頼する推薦書の内容を検討する必要があります。

それぞれの締め切りに出願書類を間に合わせるためには、少なくとも初稿を2か月前までには仕上げることをお勧めします。しかし、イギリスは1月下旬が締め切りのため、2か月前は最終試験中になりますので、やはり夏には初稿を書いておけると安心だと思います。

エッセイと推薦書の執筆と同時に重要なのが、MOCK 1と2です。横浜市立大学に出願する場合、MOCK 1を活用します。東京外国語大学、上智大学、イギリスの大学はMOCK 2を活用します。つまり、両方のMOCKが出願に大きく影響するという事は、受験のピークが長いということになり、精神的体力的な負担も大きくなります。どちらのMOCKに重点を置くかということも、出願校を決める際のポイントと言えるでしょう。

MOCKで算出される見込み点によって出願できる大学が変わる可能性があります。自分の目指す大学のスコアに見込み点が届くように学習に励みましょう。

表1 国内とイギリスの併願（ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
横浜市立大学			エッセイ初稿			出願〆切					
東京外国語大学					エッセイ初稿			出願〆切			
上智大学							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

B) 異なる国の間の併願の場合

出願の準備における時間と労力という点において、複雑さは異なりますが、おおよそ、①アメリカ、②イギリス/カナダ/ヨーロッパ、③オーストラリアの3つのタイプに分けられます。①アメリカと②イギリス/カナダ/ヨーロッパの併願より、①アメリカと③オーストラリアの併願は比較的容易であると言えます。しかし、出願の複雑さよりも、自身が何をどこで学びたいかということが一番大事にして、出願先は検討すべきです。

表2はアメリカ(Common Application 活用による出願)の早期出願(early decision)、通常出願(regular decision)、イギリスの出願(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の出願締め切りを示します。アメリカの早期出願の場合、専願の扱いになりますので(early actionはその限りではない。)、出願には注意が必要です。アメリカの場合、出願する大学によって提出書類はかなり異なります。早期で決まらない場合に備えて、通常出願とイギリスの準備を同時進行で行います。表2のように、夏に初稿を書くことになるので、それまでに自己分析等を進めることをお勧めします。

表2 アメリカ(Common Application 活用)とイギリス(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の併願

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
US早期出願					エッセイ初稿			出願〆切			
US通常出願							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

5. 奨学金について

海外進学の際に、最も多く聞かれる質問の一つに奨学金があります。一般的に国内大学に進学する場合、奨学金は給付型（返済不要）と貸与型（返済必要）に分かれますが、海外進学において奨学金(scholarship)は返済不要のものを指します。貸与型の場合は学費援助 (Financial aid) と呼ばれ区別されます。

海外進学者向けの奨学金は大きく分けて2種類あります。

- ① 国内で申し込む奨学金
- ② 海外で申し込む奨学金

①国内で申し込む奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の国費による支援をはじめ、柳井正財団、公益財団法人グルー・バンクロフト基金、リクルートなどがあります。しかし、海外進学者向けの奨学金の競争率は高く、非常に狭き門になっています。

②海外で申し込む奨学金は、合格後に大学から提供される奨学金も含まれます。渡航前に、学費の免除率が提示されることもあります。イギリスは、初年度のみ奨学金の場合が多いですが、アメリカの場合は、在学中に成績優秀者に奨学金が出るケースもあります。大学ごと学部ごとに奨学金の内容も異なるため、大学選びの際に、留学生向けの奨学金の有無、学部ごとの奨学金の有無等は、大学のアドミッションに問い合わせましょう。

さらに、出願の際に、奨学金を申し込む場合には、提出書類が異なる場合があります。出願の際に、よく確認し、奨学金に申し込めるようにしてください。アメリカの場合は、奨学金を希望する場合としない場合で、合否に影響する大学もあります。ポリシーをよく確認しましょう。

奨学金以外にも、寮費などを免除してもらえる制度がある大学もあります。例えば、寮の管理人として、寮生をまとめるリーダーを引き受けると寮費の一部免除等がある大学があります。事前に、経済的な負担軽減について調べることで、海外進学における経済的ハードルをクリアできるかもしれません。

奨学金は、自分に該当するものを探し続け、アンテナを張っておくことが大事です。国内で申し込む奨学金だけでなく、進学後、大学で申し込む際にも、情報収集を惜しまないようにしましょう。

(参考)

海外留学支援サイト. (n.d.). 海外留学支援サイト. Retrieved June 28, 2024, from <https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

6. 合格大学一覧（16期生 IBコース生 令和6年5月2日現在）

【日本】（50音順）

国立

大学名	学部	入試形態
京都工芸繊維大学	工芸科学部	総合型
高知大学	医学部	IB入試

公立

	大学名	学部	入試形態
公立	国際教養大学	国際教養学部	グローバルワークショップ
公立	都留文科大学	教養学部	IB入試
公立	横浜市立大学	国際教養学部	IB入試

私立

	大学名	学部	入試形態
私	神奈川大学	理学部	一般
私	慶應義塾大学	環境情報学部	総合型
私	国際基督教大学	教養学部	総合型
私	芝浦工業大学	建築(APコース)	IB入試
私	上智大学	外国語学部フランス語学科	IB入試
私	東京都市大学	建築都市デザイン学部(建築学科)	IB入試
私	東北芸術工科大学	芸術学部	総合型
私	法政大学	グローバル教養学部(GIS)	自己推薦
私	法政大学	文学部 英米文学科	IB入試
私	明治大学	農学部	総合型
私	立教大学	法学部	一般

【海外】（アルファベット順）

【アメリカ】

American University
Brandeis University
College of William & Mary
Dickinson College
Mary Washington
Northern Virginia Community College
Tufts University
University of Maryland, College Park

【イギリス】

SOAS, University of London
University of East Anglia
University of Portsmouth
University of Sussex

【ニュージーランド】

Victoria University of Wellington

【マレーシア】

Help University

【オーストラリア】

Monash University
Queensland University of Technology (Diploma)
The University of Melbourne
The University of Queensland
The University of Western Australia
University of New South Wales
University of Sunshine Coast
Western Australia University (Foundation)

【カナダ】

George Brown College
Simon Fraser University
The University of British Columbia
York University

【フィンランド】

University of Eastern Finland

7. 16 期卒業生から在校生へのメッセージ

【国内】

○ 国際教養大学 / 国際教養学部 / 下平 心那

① 大学・学部決定までのプロセス（焦ってはいるけど将来分からなすぎるという方へ）

私は3年生になるまで大学・学部悩んでいました…自分のしたいことが全くわからなかったので、今まで取り組んだ課外活動やCASから楽しい、大切にしたいと思ったものを探すことから始めました。

SDGs小論文コンテスト実行委員と、2年のIA祭り（冬-春休み）の時期に力を入れて取り組んだフェアトレードカフェの活動を振り返り「相互的な関係」と「グローバルな問題に対する、地域的な取り組み」、「IBのような少人数授業体系」というキーワードに辿り着きました。これを元に人や地域との交流を大切にし、世界基準で学ぶことができる大学を探した結果、AIUに辿り着きました。

自己分析を0からやる、ということ大変なことに聞こえるけれど、やってきたことを振り返れば十分自己分析になります。この方法、考えたプロセスやキーワードがそのまま志望理由書に書けるのでおすすめです!!

② 1、2年でやっておくと良いこと

明確な将来像がないのであれば選択肢を増やすことを強くおすすめします。基本はIB入試や総合型選抜での受験になると思うので、ネタは多ければ多いほど有利です。課題との両立可能ラインギリギリを攻めましょう。

私は出願のスケジュール上、6月には志望理由書の内容を大方決めたので、夏休みは試験勉強に集中できました。後にもっと点数が高ければ、と思うなら今を全力で!というマインドで毎日友達と中央図書館に通い詰めていました。(警備員さんも顔を覚えてくれていました笑)

リベラルアーツへの進学を目指す方は「リベラルアーツを(で)学びたい理由」を考えておくが良いと思います。AIUの面接でも聞かれました。選択肢が多いことはリベラルアーツの強みですが、それが逃げの選択ではないことや、自分なりに思うリベラルアーツだからこそ学べることを伝えるのは意外と難しいと思います。

③ 最後に

自己PRと面接の時くらいは(良い意味で)謙虚でなくても大丈夫。3年間の努力と自分の成長を信じて頑張ってください!

○ 慶応義塾大学 (SFC) / 環境情報学部 / 藤平真里奈

① 大学・学部決定までのプロセス

1年次から継続的にボランティア参加や研究活動を行っていたため、それを活かせると思い2年の11月ごろから本格的にA0入試の準備を始めました。

これまでの活動を振り返りながら大学で何を学んでいきたいのかブレインストーミングする作業を重ね、2年の2月ごろに志望学部を慶應の総合政策学部 (SFC) に決定しました。正直当初は「名が知れている大学だし、幅広い分野を学べそう」という漠然とした動機しかなかったのですが、シラバスを熟読したり、志望理由書を書き進めていく中で、「〇〇だから私はSFCに行きたい!」という明確な動機を形成していきました。

② 出願準備の時期と準備に関するアドバイス

当たり前ですが早いに越したことはありません。(IBの後輩の皆さんには参考にしてほしくはないですが)、私はA0入試に100%熱量を注ぐことを決めていたので、2年の冬という早い段階で対策を始めました。私が出願したSFCでは志望理由書のほかに、自分をA4用紙2枚で表現する「自由記述」、自分に関わる成果物を10の資料にまとめる「任意提出資料」を提出する必要があり、非常にボリュームミーだったため、早い段階で準備を始めたにもかかわらず3年の夏にはだいぶ追い込んだ作業をすることになってしまいました。私のようにIB生で総合型を受ける方は、MOCKや最終試験の時期も加味して、遅くとも2年の間には志望校を決定し、すぐに提出資料を作成する作業に取り掛かるのが理想的だと思います。

③ 1、2年のうちにやっておくといいこと

完全に私見ですが、学年に関わらず、国内大学の総合型選抜を受けるのであれば今すぐに「探究活動」に取り掛かることをお勧めします。探究活動とは何か?というところ、興味のある、今後専門的に学んでいきたいと思う学習領域やリサーチクエストに関する調査をすることです。例えば、私の場合は以前からアフリカや国際協力に興味があったので、現地の方とオンラインでコミュニケーションをとったり、NGOで働いている方にお話を聞きに行ったり、長期休みに実際に途上国に行ってボランティア活動を行ったりしていました。これを聞くと少しハードルが高いように感じるかもしれませんが、どんなに小さなアクションでも、早い段階からコツコツ続けておけば、最終的にそれを提出資料や面接で大学側にアピールすることができます。IBの皆さんはCASやEEなどで課外活動や論文執筆を絶対にやらなければいけない環境にあると思うので、それをうまく利用して、自分の興味がある分野に関する活動や調査を行うのがお勧めです。

④ その他、想いのたけを!

A0入試は特別なバックグラウンドや突出した活動歴が必要だと思われがちですが、そのようなものがなかったとしても、こつこつ調査活動を続け、それを大学側に的確にアピールすることができれば良い結果が得られるのではないかと私は思っています。

一般入試の勉強やIBのIA、最終試験など取り組まなければならない課題が山積みで大変だと思いますが、明確な興味分野やこれまで積み上げてきたものがある方は是非A0にもチャレンジしてみてください。応援しています!

① 大学・学部の決定までのプロセス

小さい頃から大工仕事などのものづくりに興味があつて、数学や物理も学問として好きだったし、人とのコミュニケーションや歴史・言語に関する多様な教養が求められる「建築家」を中学校以前から夢見ていた。今では伝統工芸や希少言語などといった文化・伝統を継承するという大きな人生の目標を掲げながら、学部生の間は基礎知識や適用能力を身につけて、京都の街でいろいろなものづくりに触れている。学部を卒業したら大学院に行くかはまだ決めていないが、いずれ宮大工になることを計画している。京都工芸繊維大学では木造建築を教える先生が何名かいるため、歴史か保存か構造かどの分野に進むかはまだ決めていないが木造建築の理解を深め、木造建築が再び普及している日を作るための勉強をしたい。建築構造は、IBのEEを物理でやったもの(石場建ての免震性)と直接関連しているし、木造建築史は大学に入る前にインターンに行った宮大工の親方が尊敬している先生が教えている。とにかく楽しみだ。

京都工芸繊維大学のことを知った最初のきっかけは、高1のときに檜ヶ岳から降りていたときに京大卒の建築家と温泉で会って、その冬休みに京大のキャンパスを案内してくれて、「京大ほどのレベルではないが良い建築の大学」として工織を紹介してくれたのが最初である。結局大学側がどの程度理解して評価してくれたかどうかはとても怪しいが一応要項にIBのことも書いてあったし、「ダヴィンチ入試」ってカッコつけている総合型入試の試験内容も、創造力やコミュニケーション力、英語力と、自分に適した入試形式があったため第一志望として選んだ。京大建築にIBの総合型があったら行ってたかもしれないが、IBDPもしくじってしまったし、それだけでは怪しかったかもしれないが、IBの論文構成や養われた思考力は確実に役立った。

② 出願準備の時期と準備に関するアドバイス(計画、理由書、面接など)

できるだけ広く情報収集して、自分の理想像と真剣に照らし合わせる。オープンキャンパス行ったり、志望する仕事に就いている大人の話しを聞いたり、先生と相談したりとやりたいことと手段に具体性がどんどんついていく。僕は志望理由書を担任の先生が見てくれて、添削してくれたおかげで大学の先生の心に通じた(と思う)文章を書けた。工織以外でも、結局は二次選考を受けに行かなかった北海道大学のために市川先生と真剣に夢について語ることで考えを整理することができた。やりたいことがなければ大学に行く必要もないからね。せっかく横浜国際高校という素晴らしい環境にいるから先生方に丁寧をお願いして夢を共に語りましょう！

③ 1、2年でやっておくといいこと

楽しむこと！IBを言い訳に勉強だけに自分を制限するのではなくて、IB生だからこそいろんなことに挑戦して好きと思える自分の道を切り開いていくのがとても大事だと思う。部活動はもちろん、社会人とかとも自分から率先して交流すればどうでしょう。うまく言えばCAS活動になってしまいますもの！しかし一番大切なのはIBの勉強だから、早め早めに勉強したり課題に取り組んだりするのが一番大事。僕はこれができなかったから痛い目に遭ったし、今大学生になっても苦勞している。一生そうだが一年生とか二年生の前半とかにたくさん本や教科書を読むのが絶対生きる。いろんな歴史家の歴史本とか、それぞれのIBの教科書とか。グループ4とか5は特に、教科書に書いてないことはでるはずないから意外と読むと答えが載ってるから！やはり熱い好奇心と絶えない勤勉さを持っているとIBDPはもちろん、人生何にでも挑める(はず)！

① 大学・学部の決定までのプロセス

医学を学びたいと考えていた私にとって医学部への進学は唯一の選択肢でした。入学当初は海外に進学することに対して漠然とした憧れがあり、国内・海外両方を視野に入れ進路を検討していました。しかし、医学部卒業後のキャリアプラン、学費などを比較した結果、自身にとって海外で学ぶ意義やその価値が見出せず、国内の大学を受験することに決定しました。結局、「医学部」で学ぶ知識はおおよそ世界共通であり、将来的にココ（海外）で、こうやって働きたい！という強い展望がない限り険しい道であるということが私なりの結論でした。ほとんどの国内医学部のIB入試は38を取ることが出願条件です。裏を返せば、38以上さえ取得してしまえばIB入試では国公立医学部を複数校受験できたので、受験校にこだわりのなかった私はmockで成績を伸ばすことが受験の第一歩でした。

② 出願準備の時期と準備に関するアドバイス（計画、理由書、面接など）

私にとっての出願準備としての最優先課題はなんといってもスコアアップでした。上記のように、そもそもmockでハイスコアを叩き出さない限り受験はおろか、出願すらできない状況の中、勉強をサボり続けた私の2年後期の成績は29(EE,TOKを除く)。成績を10上げなければいけないという事実をやっと危機感を抱き始めた私はクラスメイトが志望理由書の作成に励む中、一步遅れて勉強を始めました。幸いにも、見込み点のおかげで成績はボーダーを超え、希望する大学全ての受験ができるようになりましたが、mock1終了直後にはTOKエッセイと並行して自己分析を行ない、慌ただしい日々を送っていたと記憶しています。志望理由書の作成、それに伴う自己分析は同時に面接の練習でもあります。志望理由書を作成する時点で自分の受験における軸を作ることで、面接中にどのような質問が来ても、その軸に繋げることでスムーズに回答できるようになります。私は、担任だった小田先生に何度も面談&練習を繰り返していただき、その軸がブレないようにすることを中心に練習を重ねました。時間に余裕があるのであれば、志望理由書は受験における全ての土台となるので、早い段階から時間をかけて丁寧に作り上げることをおすすめします。私の場合、複数校受験に加え、ギリギリかつグダグダな準備によって9月という最終試験前の重要な時期を丸々提出書類の作成に捧げていました。これらの経験談を反面教師とし、早い段階から進路を意識しておくことで、IBと並行する国内受験も余裕を持って取り組めるはずです。

③ 1、2年でやっておくといいこと

繰り返しになりますが、進路につながる課外活動、オープンキャンパスの参加、英語資格の取得は早い段階でやりましょう。行動を起こすきっかけは、「先生・先輩にそう言われたから」でも全く問題ありません。どんな理由であろうと始めてみれば新しい発見につながるはずです。私は、三年の夏休みにオープンキャンパスに参加し、mock2の後にIELTSを受験しました（不安の種が増えるだけなので、非推奨）。この時期は勉強に集中すべきでしたし、この時期は受験も重なるのでややハードでした。また、同じ熱量を持つ仲間たちを見つけられると良いかもしれません。朝から晩まで一緒に勉強したり、日々の記録にコメントしあったりと共に勉強に励む仲間の存在は私の支えであり、最大のモチベーションとなっていました。

③ 書いておきたいこと

- ・ mock、最終試験と受験日が重なるとあとで後悔する。受験校は慎重に選択すべし！
- ・ mock でハイスコアを取るとそれが良いプレッシャーになる。mock1 から本番だと思って臨むべし！
- ・ 医学部受験はスコア>面接な印象。まずは可能な限り成績を上げるべし！
- ・ IB は勉強すればするほど成績が上がる。まだいける！
- ・ YIS で IB を経験することができて本当によかった。絶対にそう思える日が来る！

【海外】

○ Dickinson College (アメリカ) / Educational Studies, International Studies / 市川モナ

① 課外活動について

アメリカの出願において私が一番重要だと感じるのは課外活動でした。もちろん成績もエッセイも大事ですが、大学側からしたら成績がある程度取れているのは当たり前、そして良いエッセイを書くには良い課外活動をしていないといけません。高校一年生の時から短期でも良いので色々なものに参加して、気になるものは勇気を持って始めてみるのがおすすめです。

しかし、色々な活動に取り組みすぎても、自分がどんな人でどんな分野に興味があるのか、大学の入学審査員にわかってもらえなくなります。そこで意識したいのが「一貫性」そして「ストーリー性」です。なぜその課外活動を始めたか、今までの人生経験がその活動で役立ったとどんなところで感じたか、そこから学んだことは何か、大学でしたい学びにどう繋がるか…こういった点を意識して取り組み、実際の出願に役立てる必要があります。

かといって、課外活動を始める段階から全てを考えるのは大変なので、まずは色々な活動を試し、後から熱中できるものに絞るのも良いと思います。その場合絞り始めた段階から自己分析を兼ねた振り返りをしてみるといいと思います。最終的に振り返りをしっかりできていれば、自然に「一貫性」と「ストーリー性」は付いてくるはずですよ。

② 出願準備について

アメリカの大学出願書類は、①Common App と②各大学の Supplemental 資料の 2 種類に分けられます。私は夏休みに Common App、FINAL 後に Supplemental 資料に取り組みました。

Common App エッセイは、夏休み前から題材を考え始め、夏休み中に執筆し、5つの草稿を外部のカレッジカウンセラーにレビューしてもらいながら仕上げました。エッセイを指導してきた経験のある人に見てもらうことを強くおすすめします。Common App エッセイは全大学に提出する重要なものなので、自分が自信を持てる題材を早めに見つけ出すことがカギだと思います！

Supplemental 資料は、FINAL 後に週一校ずつのペースで取り組みました。大学特有の授業や特徴をエッセイに盛り込み、キャンパスツアー（バーチャルでもどちらでも）で感じた雰囲気や生徒の特徴を具体的に書くことを意識しました。他の人と被らない、自分だけのエピソードを書くことがかなり大切です。

③ 奨学金について

財団などから出る外部の奨学金を探す際には、複数の奨学金サイトで応募可能なものをリスト化することをおすすめします。条件が厳しいものが多いので、たくさんの要項に目を通すことが大事です。私は3つしか応募しませんでした。こういった奨学金は運もかなり大きいと思うので、もっと応募するべきだったと今は思います。日本の奨学金にはトップ校進学が条件のものも多く、少しの可能性に賭けてそういった大学にもういくつか応募してみれば良かった…とも感じました。もし出願費用に余裕があればそういう理由で出願する大学を増やすのも良いと思います。

次に、大学が出している内部の奨学金について。アメリカには「ニード型奨学金」と「メリット型奨学金」の2種類があります。メリット型奨学金は大学によって給付の有無や応募に必要な資料が異なるので、各大学のホームページを確認することが重要です。私は第一志望だった大学にメリット型奨学金がなく、後から「受かっても行けない」と気がつきました。出願する大学リスト作成時から奨学金を考慮するべきだったなど少し後悔しています。奨学金は「safety校、match校、reach校」の順に取りやすいので、特にsafety校とmatch校の出願準備は、メリット型奨学金も同時進行で取り組むと良いと思います！

大学受験は大変ですが、この経験から得られる学びは今後も役に立つので、ファイトです！応援しています！

○ University of Maryland, College Park (アメリカ) / Interior Design / 大藪 恵里加

私はインテリアデザインが勉強できる大学を選びました。まず行きたい地域を選び、インテリアデザインコースのある学校を絞り込み出願しました。アメリカの大学の出願では、エッセイが一番頑張りました。そこでどれくらい自己表現できるかが一番大事！成績が良い悪い関係なく、自分の人柄、大学への想い、夢を実現したい気持ちなどをよく伝えるチャンスです！私は自分が納得する表現方法や流れを作るためにほぼ毎日書き直しをし、エッセイの数も多かったから全てを完成するのに半年くらいはかかりました。ドラフトもいくつも書き、カウンセラーと月に1回は見直しを行いました。また、出願準備を始める前に大学が求めるものを早めに確認しないと急に忙しくなります！私の場合、通知なしでエッセイトピックや字数が変わったりしたから、定期的にチェックしよう。1、2年でできることは、興味あるものや自分が楽しいと思えるものを探すor明確にする！その後に行ってみたい大学や地域を調べる！3年になって忙しくなる前に大学の見学にも行ってみよう！大学を絞り込むのは3年になってからでも全然間に合います！そして、大学に相談することもオススメ！私が大学のアドバイザーとたくさん相談した結果、3つの大学でインテリアデザインの授業を取ることが可能になりました。自分が思ってもいなかったような学び方やチャンスがあるかもしれないから、機会があれば直接大学と相談もしてみてね！何よりも大事なことは自分がやりたいことを自分のためにはっきりさせることです！自分の人生だからやりたいことができるように動こう！

○ University of Sussex (イギリス) / Anthropology and International development /
 兒玉 泰誠

① 大学・学部決定までのプロセス

自分はやりたいことをぼんやりと紙に書き出しそこから
 →勉強できる学部 →各大学の学部のモジュール (シラバス) →大学決め
 という順番に調べ、決定しました。

特にイギリスの場合、5大学 or 5コースまでしか出願ができないので、DPスコアが似ている大学の場合は大学のホームページに書いてある modules を読み込み、自分が学びたいことがしっかりと学べるかを調べ、その上で大学を絞るといいと思います！

② 出願準備の時期と準備に関するアドバイス

全体の準備

自分は一人で出願したりするのではなく、beo という留学エージェントを使用し出願準備に取り掛かりました。そこで出願スケジュール調整や出願代行を行っていただけのため、ストレスフリーかつ焦ることなく出願をすることができました。

時期

時期に関しては早め早めが重要です！とにかく IB 生 (特に自分) は FINAL 後一気に遊び気分になってしまうため、FINAL 後の自分に託しすぎず、今できることを早めのうちにやりましょう！

Personal Statement の準備

3年生の春休みから IA などが本格的に始まり忙しくなると思うので、その前に一度 Personal Statement の Draft (箇条書きでも良いので) を書き、一度外部の専門家や YIS の先生に一読してもらい、構成などのアドバイスをもらいましょう！

Entry requirements の準備：

学年	1年		2年		3年	
	4~9	10~3	4~9	10~3	4~11	FINAL 後
大学選び	やりたいことを決める		志望校を出す	志望校を絞る		
Personal Statement	興味があることに関連した活動を行う			箇条書き + ドラフト		清書
推薦文	-				先生と面談	清書を貰う

ここに関して基本的にイギリスの大学は **Entry requirements** に書かれている点数以上を取れたら合格が決まり、(University of Sussex の採用官曰く) **IBDP -2** 点までだったら **Personal statement** や推薦状を見て総合的に合否が決まるとおっしゃっていました。(大学や時期などによってそれは前後することもあるので) まず一番大切なのは **IB** 生であれば **Final** に向けて全力で勉強することです！

③ 1,2年ですべてやっておくといいこと

1年：自分が将来やりたいことを見つける+学部探しをするために色々体験することをお勧めします！

Activo などでボランティアをしたり、**Group 4** の部屋に掲示されている物理チャレンジなどのコンテストに応募してみたり、とにかく色々経験をして自分の好きなこと・将来やりたいことを考えてみましょう！

2年：自分のやりたいことが、どの学部で学べるのか、どこの学部を卒業すると自分のやりたいことが出来るのかを調べてみましょう！

そして一番行きたい大学の他に安全校も一緒に調べてみましょう。

とにかくイギリスの大学は **Final** の成績が最も重要なため、日々の勉強を頑張ってください！応援しています！！！！

○ University of Eastern Finland (フィンランド) / Lifelong Learning and Sustainable Development / 堀 百伽

① 大学・学部決定までのプロセス

・なぜ非英語圏への留学なのか？

小学6年生頃から「フィンランド留学がしたい」と言っており、高校で **IB** コースを選んだのも、フィンランド留学を見据えた選択でした。進路について考えていくうちに「教育を政策学や社会学的な観点から学びたい」という方向性が決まり、今回の進学先を含めた社会学系のプログラムをフィンランドで1学部、オーストラリアで1学部受験しました(スウェーデンも7学部分出願準備を進めていましたが、私の条件だと今年は受験できないことがわかり、フィンランドが不合格だったら来年また受験しようと考えていました)。

・フィンランド留学という選択肢

フィンランドの大学の受験について、情報が少ないということが大きな懸念点になると思うのですが、用意しなければいけない書類や出願の方法はわかりやすく簡単です。また、情報は少ないものの、大学のホームページを読んだり、メールで質問を送ったりすれば、大抵のことはなんとか答えを得ることができます。

私が進学する学科はたまたま二次試験まであったのですが、基本的にはアメリカやイギリスのような自己推薦書や推薦書がいらなく、国際資格 (**IB** など) や **GPA** (成績評価)、英語試験 (**IELTS** など) だけで受験します。

非英語圏とはいえ、フィンランドは公用語レベルで英語が話されているので、英語のプログラムも多く開講されています。「英語ができれば困らない」という情報に半信半疑でしたが、ウェビナーでの説明やメールのやり取りも、英語で問題なく意思疎通できています。EU 圏民は授業料 0 円のなか、日本からの学生は授業料がかかりますが、ほとんどのプログラムが 3 年間であることから、海外大学の中では特別コストがかかるわけではないと言えます。特に理系は多くの選択肢があるので、海外大学の受験を決めている方は英語圏だけでなく北欧の大学もチェックしてみたら良いかもしれません。ただ、フィンランドの大学は合否発表が遅いことも多いので（私が受験した学科は 5 月 22 日に発表されました）、併願する場合は他の大学の入学金の支払いの時期をよく確認しておく必要があります。

非英語圏への正規留学は英語圏に比べてマイナーで情報が少ないですが、決して不可能ではないので、選択肢を広げる意味で視野に入れてみるのも良いかもしれません。

② 1, 2 年でやっておくとよいこと

・進路選択について

受験校を選ぶ際に、学ぶ内容で選ぶ人は多いと思いますが、学ぶ方法についても注目することをおすすめします。講義型なのか、IB のように議論ベースなのか…学ぶ内容が同じでも、学び方が違えば身につく知識も別物になるということを、IB の勉強で実感しているのではないのでしょうか。

私は、結果的に「フィンランド留学がしたい」という高校入学時からの（もっといえば小学 6 年生からの）希望通りになり初志貫徹だったわけですが、もちろん他の選択肢も検討しました。現在、在留許可申請等向こうで暮らすための準備をしているのですが、日本の大学から交換留学に行く方法が最も簡単で、手続きも楽になります。交換留学や短期留学、大学院での留学等の選択肢があるなかで、なぜ正規留学がよいのか？短期ではだめなのか？という問いに答えられるようにしておくと思いいます。

私の場合は日本のいくつかの大学のウェビナーにも参加して、いくつか魅力的な学部を見つけたものの「なぜフィンランドの教育が成り立っているのか知りたい！そのためには、実際に暮らし、国の仕組みごと知りたい！」という思いから、やはり短期の交換留学などではなく、正規留学がしたいという意志を確認できました。この点を明確にしていたことは、奨学金のエッセイや二次試験の面接でも役立ちました。

③ その他

北欧の留学を目指すにあたって一番大変だったのは、情報収集でした（今も…😅）。北欧留学は近年増えているものの、学士課程の正規留学というケースはなかなかなく、まったく同じ状況の人というのが身近にいないことが不安でした。

皆さんも、IB という日本ではまだまだマイナーな選択をして、わからないこともたくさんあると思います。私は、IB コースでの学生生活も、北欧への出願も、のちに同じ志を持った人の力になることをモチベーションとして、記録を残したりしながら乗り越えてきました。いつでも、どんなことでも質問していただけたら嬉しいです！

